

# 「竹田家」が抱え込んだ

## 借金騒動



病院を担保に借金（松見病院と出資証券）

動の「貸し手」である秋田英雄氏だ。

秋田氏は東京都小平市で不動産業を営むかたわら商工会議所の役員でもあり、地元ではちよっとした名士だ。いかなれば商店街の小金持ちなのだが、失礼ながら皇族とはあまり関係なさそうな人である。その秋田氏が「竹田家のために用立てた金」とは何だったのか。

高貴な家柄——らしからぬ騒動なのである。

元皇族の竹田家といえ、戦前まで「竹田宮」として知られ、日本馬術連盟副会長からJOC会長に就任した竹田恒和氏は、明治天皇の曾孫にあたるのだそうだ。

ところが、そんな竹田家の親族が巨額の借金を抱えたまま返そうとせず、怒った債権者が恒和氏にまで返済を求めるといふ騒動が起きている。「竹田家のために必要だ」というから信用して金を貸したんです。でも、待てど暮らせど返ってこない。一体どうなっているんですかね」

そう憤るのが、この借金騒

話は4年前の夏に遡る。「小平の市議から、病院の理事長で困っている人がいる。助けてやってくれないか」と頼まれ、ある御婦人を紹介されたのです」（秋田氏）

それが、松見イクさん(81)という老婦人だった。松見女史は「松見病院」という、小平にある精神病院の理事長を名乗っていたという。

「聞けば松見さんは病院の経営者というだけではなく、その娘さんは明治天皇の曾孫（竹田恒和氏）に嫁いでいるというじゃありませんか。そんな人が、どうして困っているのか、とにかく世田谷のお宅に伺って話を聞くことにしたのです」（同）

松見女史宅を訪れた秋田氏

はずっかり腰を抜かしてしまつた。

「豪壮な大邸宅で、運転手つきベンツのリムジンもある。さすが皇族につながる家は違うなあ、と無い上がつてしまいました。でも、それがいけなかつたのです」

話し合いには松見女史と、病院の理事を務めていた娘（竹田恒和氏の妻）も同席していた。

「彼女は自分が理事長をして、松見病院と採めていて、もう病院や土地建物を手放してしまいたいというのです。その売却を私に手伝ってくれ」という話でした。松見病院の竹田家に嫁いだ娘さんも同席していたので、私はすっかり信じ込んでしまったのです」（秋田氏）

うまく売却できれば秋田氏にも報酬が入るといふので、これは、いい話だと思つた。

た矢先、松見女史が切り出した。

「松見さんは何を思ったのか。私は竹田家の面倒を見ているので、ひと月2000万円はかかるの」とか、昔、竹田（恒和氏）には高価な馬術用の馬を何頭も買ってあげたことがあるのよ」と、お金がかかるといふことがないといふように、病院の売却を任せる代わりに、当座の金として4500万円ほど貸してくれないか」と言い出したのです」

躊躇する秋田氏に、松見女史が借金の担保として差し出したのが病院の「出資証券」と書かれた証書だった。「彼女によれば、何でも病院の株券。みたいなものだというのです。いちおう彼女の資産も調べてみたのですが、渋谷区にも貸しビルを持っており、家賃収入もある。これ

JOC会長の竹田恒和氏(54)にとつては降つて湧いた災難だろう。明治天皇にも連なる元皇族・竹田家の親族に巨額の「借金騒動」が持ち上がったのだ。しかも、この問題、こじれにこじれて、怒った債権者は「こうなったら竹田JOC会長に払ってもらうしかない」と息巻いているのだ。



# 村来 旧皇族JOC会長

# 「1億3000万円」

身内の不始末に頭が痛い（竹田JOC会長）

なら焦げ付くことはないだろうと思っただけですが……」（秋田氏）

すっかり信じ込んだ秋田氏は、金を工面して渡すのだが、実は松見女史、とくに病院の理事長を解任されていたのだ。その後も、秋田氏は女史から無心され、貸し付け額はいつの間にか6000万円に膨らんでいたが、しばらくして驚くべきことが判明する。

「いつまで経っても金を返す気配がないので変だなと思っ

## すでに「多重債務者」

泡を食った秋田氏、改めて松見女史の周辺を調べてみたという。すると、出てくる出てくる、女史はあちこちから借金をして、しかも返済していない借金が分かつているだけでなく1億3000万円。雇っていた運転手の給料さえも未払いという体たらくだったのである。

秋田氏は出資証券をタテに病院にも掛け合ってみたが無駄足だった。

「松見さんは、理事長だった頃から、自分の持ち分権を出資証券のようなものにして、

ていたら、松見さんは、いつの間にか自宅やビルを売ってしまっていたんです」（同）

原因は松見女史の乱脈経営だった。彼女の事業が失敗して病院が20億円の借金を背負い込んでしまったのだ。

「そのせいで松見病院は、いつのまにか怪しげな連中のターゲットになり、富士・東海銀行事件や、あの許永中の関係者などが出入りする。伏魔殿みたいな病院になっていったんです」（病院関係者）

色んなところでお金を借りまくっていたようです。でも、そもそも病院の持ち分権は証書にできるものではないし、株券のように担保にはなりません。秋田さんからも、イクさんに貸した金が返ってこなくて困る」と相談を受けましたが、彼女の個人的な借金だし、もう病院とは関係ないことです」（松見病院の顧問弁護士）

秋田氏が預かった「出資証券」は、ただの紙屑だったというのである。さらに、松見女史はしばらく

くすると住所さえつかめなくなってしまう。

「松見さんは今や収入がないし、住所も不定だから差し押さえもできないんです。どうやら彼女は、親戚を転々として、今は、神奈川のどこかで娘と住んでいるらしい。その娘も夫の竹田恒和氏とは今や別居状態だそうですよ。竹田家の一族だから信用していたのに、あの家族はどうなっているんでしょうか。松見さんとは今のところさうじて携帯電話で話しかけるのですが、借金の話をすると、足が痛い、などと理由をつけて、切れてしまう。もう、まともな交渉さえ出来ないんです」（秋田氏）

まるで、多重債務者を相手に行っているみたいである。そこで当の松見イク女史に携帯電話で聞いてみた。

「秋田さんとはちゃんと話し合いをしており、借金は返済することになっているんです。だから問題なんかありません。借金だって本当はあんなに多くはないのよ」

どっちが本当のことを言っているんだか分からなくなってきたが、この借金話には竹

田恒和氏の妻も関わっているし、恒和夫妻の子息である恒泰氏も登場する。借金の一部について恒泰氏が自ら保証人になっているのだ。

だが、その恒泰氏、実にあつさり、

「祖母（松見女史）が借りた金は青山で経営していた不動産会社の債務整理に使われて消えてしまったんです。竹田家とは関係ありませんよ。ただ、借金が1億円以上あるといっても、ほとんどは法外な金利を加算したもので、実際には2000万円ほどしか動いてはいません。祖母はもう無一文になっており秋田さんには悪いけど、貸した金は返ってこないでしょう」

そして、当の竹田恒和氏もきっぱり否定する。

「借金なんて、まったく私の知らない話です。松見家の問題でしょう」

だが、あきらめない秋田氏、今度は他の債権者の貸し金も1本にまとめてしまい、「債権者代表」の立場で返済を求めると息巻くのだ。

「こうなったら竹田家とも話し合って、きちんと返済してもらおうしありません」